



第2次阿南市男女共同参画基本計画を策定 ダイジェスト版を全戸配布



平成26年度から平成30年度までの5年間の男女共同参画社会実現に向けた基本理念や行動計画などを定めた「第2次阿南市男女共同参画基本計画(案)」が3月14日、阿南市男女共同参画審議会から岩浅市長に答申がありました。答申にあたり会長の安藤寿武さん(79歳・畷町)からは、「特に力を入れるべき内容や5年後の目標値などを具体的に盛り込みました。昨年の日本女性会議の成功を糧に、さらなる男女共同参画社会の実現に向けて力強く推進してほしい」と提言をいただきました。市では、それを受けてすみやかに計画を策定し、市ホームページなどで公表しています。なお、広報あなん6月号にダイジェスト版を折り込んでいますので、ご覧ください。

大規模災害に備え給水車を購入 災害時には那賀町、美波町にも対応



市は、南海トラフ巨大地震などの災害や水道管の破損などによる断水時の応急給水に対応するため、約897万円をかけて「給水車」を購入しました。2,000ℓのステンレス製給水タンクを積載し、約25mの高さまで給水が可能で、平常時は断水時の給水などに使用し、災害時には那賀町や美波町の応援給水にも対応します。4月17日に橘地区防災公園で行われたお披露目式で、岩浅市長は「命の水を運ぶ大切な車で、災害時に大きな役割を果たしてくれるものと期待しています」とあいさつ。給水訓練に参加した橘婦人会長の渡邊幸江さんは、「早め早めの対策を心強く思います。橘地域でも防災・減災訓練などで給水活動の大切さを伝えていきたいです」と話していました。

阿南の魅力再発見！ 阿波学会が市内での調査結果を発表



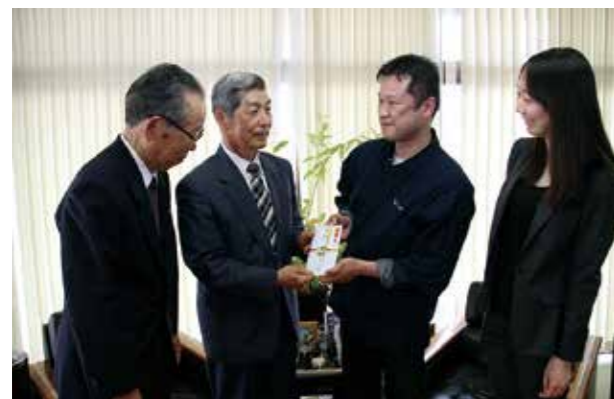
県内の自然や社会、人文科学などを幅広い観点から研究する総合学術団体「阿波学会」による平成25年度調査発表会が4月27日、文化会館で行われました。地質、鳥類など14の調査分野のうち8分野で発表があり、約100人が熱心に耳を傾けました。道教に由来する「庚申信仰」を取り上げた民俗班の天羽祥仁さん(51歳・大野町)は、庚申塔の調査と住民の聞き取りを行った結果、信仰自体は衰退しているが、個人で庚申塔をまつる信仰は続いていると報告。参加者からは、「自力で調べられない専門性の高い話を楽しめた」といった声が聞かれました。阿波学会では、来年3月8日に2年間の調査結果をまとめた最終報告会を行う予定です。

四国市長会議を阿南市で開催 国へ要望する10議案をまとめる



四国4県38市の市長が一同に会し、国へ要望する共通した課題について話し合う「第136回四国市長会議」が、5月13日、阿南市で開催されました。開催市長として岩浅市長は、「四国を取り巻く現状は依然として厳しい。これからも共に手を携え、課題の解決に取り組みしましょう」とあいさつ。議事では、地方行財政基盤の充実強化や南海トラフ巨大地震対策、四国8の字ネットワークの早期整備等について48の議案を採択し、その後10議案に整理統合しました。6月の全国市長会の審議を経て、国へと要望されます。四国市長会議は年2回、持ち回りでされており、本市での開催は平成12年以来5回目。次回は、秋に愛媛県東温市で行われます。

環境保全などに役立てて カタツムリスイーツの売上金の一部を寄贈



カタツムリの新種「アナムシオイガイ」をモチーフにしたスイーツを企画・販売した阿南カタツムリスイーツの会が、売上金の一部11,098円をアナムシオイガイが生息する加茂谷地域の住民組織「加茂谷元気なまちづくり会」に寄贈しました。売上金の1%を環境保全と地域活性化に役立ててもらおうと、昨年10月末から3カ月限定でケーキやクッキーなどを販売し、4,826個を売り上げました。4月17日に市役所で行われた贈呈式で、阿南カタツムリスイーツの会代表の岡澤孝浩さんから目録を受け取った横井知昭さん(水井町)は、「貴重な浄財をいただき感謝しています。地域の人と相談して有効に使わせていただきます」とお礼を述べました。

23年の足跡が一冊の本に！ 阿南・モンゴル野球交流の記念誌を発刊



旧那賀川町時代から始まった阿南市とモンゴル国の野球交流の足跡をまとめた記念誌「阿南・モンゴル草の根の国際交流」を、4月17日に発刊しました。平成3年、1人の少年からの手紙で始まった草の根交流は、今年で23年目。昨年には映画「モンゴル野球青春記」の全国上映や阿南市からのモンゴル訪問など、交流の熱が増しているこの機に記念誌を発刊することになりました。記念誌はA4判のカラー刷りで、28ページ。製作されたのは1,000部で、市内図書館や小中学校などでご覧いただくことができます。在モンゴル日本国特命全権大使の清水武則さんなど9人による寄稿文のほか、長年の交流の様子が写真で収められています。

日本女性会議が縁で交流始まる 阿V協の有志がたこ焼き販売で若者支援



阿南市ボランティア連絡協議会の有志が、スケートボードイベント「滑竹祭」の会場でたこ焼きを販売し、売上金の一部10,932円を阿南スケートボード協会に寄付しました。日本女性会議の分科会活動で知り合ったのがきっかけで、2年前から交流を深めています。5月3日のイベントには16人のボランティアが参加し、146パック(約3万円)を売り上げました。同協議会の呼びかけボランティア副代表の吉尾卓典さん(67歳・那賀川町)は、「お互いが元気になれたらうれしいです」と汗をぬぐっていました。萩野さんは、「こうした連携は全国的にも珍しく、若者にとって励みになります」と話していました。寄付金は、イベント経費や協会の活動費に充てられます。

見て、触れて、食べて、魚を好きになって 「漁ぎょ魚まつり2014」大盛況！



ハモやタチウオ、天然わかめで日本有数の漁獲高を誇る椿泊漁港で、新鮮な海の幸をPRする「漁ぎょ魚まつり2014」が開催され、大勢の買い物客でにぎわいました。会場では、タイやヒラメなど活魚をはじめ、イセエビやアワビといった高級食材が安価で販売されました。また、海の生き物と触れ合える子ども向けのタッチングプールや魚のつかみ取りコーナーもあり、特設プールに放たれたハマチやチヌを手でつかみ上げると、大きな歓声があき起こっていました。主催した椿泊漁業協同組合の久米順二代表理事組合長は、「魚食普及には、生きた魚を直接見て、触れて、本当のおいしさを知ってもらうことが一番。イベントを通じてもっと魚を好きになってほしい」と力を込めていました。